

# 日本語と日本文学

## 第 26 号

- 
- ソウル大学図書館蔵・奈良絵本『秋の夜の長物語』  
 ——翻刻および紹介—— ……………内田 康……(1)
- 小次郎法師の物語……………魯 惠卿……(12)  
 ——泉鏡花『草迷宮』論——
- 帰国直後の永井荷風……………日比 嘉高……(21)  
 ——「芸術家」像の形成——
- 安部公房『砂の女』論……………波瀉 剛……(34)  
 ——登場人物と「砂」、およびテキストとの関係をめぐって——
- 
- 接続助詞「が」の提題用法について……………亀田 千里 ……(左1)
- 終助詞「な」の機能……………秋山 学 ……(左10)  
 ——発話様式の適切さに関する諸要素から見た一考察——
- 可決・否決のストラテジー……………若野 恵 ……(左23)  
 ——大学生の話し合い場面の会話分析——
- トイウの談話語用的役割……………守時なぎさ ……(左39)
- 滑川道夫読書指導論における児童文化的視点…足立 幸子 ……(左52)
- 

平成 10 年 2 月

筑波大学国語国文学会

## 投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙三十枚（一万二千字）程度。ワープロ原稿の場合はフロッピーを添えて御投稿ください（原稿とフロッピーは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り返

305-0006 茨城県つくば市天王台一―一―  
〒筑波大学文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

## 投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものがあります。従いまして、本誌の一層の充実

は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承ください。

## 編集後記

編集委員長が交代しました。そこで本誌を一層充実するために、より大胆な論文を掲載しようともくろんでおります。それぞれの学界がいまどんな方向で文学と言語学、それに国語教育を捉えようとしているのか。若い学徒がその方向性にもつとも敏感です。本誌に収めた論文はその一端を示してくれていると思います。本誌が学界の読者に向けたメッセージです。どのような読後感を

抱いていただけるか、私としては気になる  
ところ です。

(名波 弘彰)

平成十年 二月二十八日印刷  
平成十年 二月二十八日発行

305-0006 茨城県つくば市天王台一―一―  
〒筑波大学 文芸・言語学系内  
編集・発行 筑波大学国語国文学会  
代表者 北原 保雄  
印刷所 ニッセイエプロ株式会社

Tel 〇二九八(五一)七六五二